

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

江戸長唄ごひいき衆

所在地	東京都江戸川区	設立年	2017年
運営主体	江戸長唄ごひいき衆		
事業目標	子どもたちが、三味線の面白さに触れ、身近な場所で継続的に伝統芸能に触れられるよう、その受け皿となる連続講座を提供していく		
きっかけ	当会は、長唄三味線の普及・啓蒙活動を通じて、日本の伝統文化を知るきっかけや人々の交流機会を増やすことを目的として活動してきた。普及には、子どもの頃から三味線に親しむことが重要だが、学校における伝統芸能の鑑賞・体験教室は単発のことが多く、弾いてみようという関心を高めるのが難しく、興味を持つ子どもがいても、身近な地域で受け皿がないことが課題であった。		
団体・組織等の連携	公益財団法人横浜市芸術文化財団(神奈川県横浜市):共催 公益財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団(茨城県鹿嶋市):企画協力 横浜邦楽邦舞家協会		
活動場所	神奈川県横浜市 茨城県鹿嶋市		
活動概要	3カ月で三味線を弾けるようになり披露会をする、というゴールを明確に設定。 茨城県鹿嶋市、神奈川県横浜市の2拠点で展開。 ①鹿島神宮での奉納演奏 ②横浜能楽堂での演奏と舞台裏見学(社会科見学) という地域の文化資産のもとで稽古や披露を行うことで、参加者のモラルを高める仕掛けをつくる		

○本事業による成果

鹿嶋(11月)では鹿島神宮での奉納演奏、横浜(3月)では横浜能楽堂(第二舞台)での披露といった、普段の学校生活・部活では経験できないプログラムを設定した。両取り組みとも、LINEグループで情報共有を行い、コロナ禍での対面稽古の課題をオンライン上の動画や音源の共有等で補完することができた。

【鹿嶋】3カ月間でマスターする、とゴール設定が明確だったため、従来よりも稽古に集中し達成感があった、沢山の鹿島神宮の参拝者の前で演奏を行ったため、緊張感とともに特別な体験となった、とのコメントが寄せられた。コロナ禍もあり、参加者が少なめだった反面、きめ細やかに指導できる体制となり、より満足度、効果が上がった。

【横浜】横浜能楽堂の舞台裏を見学する、といった社会科見学要素を付加した。これにより地域の文化資源への関心を高める、というこれまでにない効果がみられた。

また、能楽堂の協力により、公民館等のチラシ配架を通じての申込だったため、結果として参加生徒の学年や校区が多様になった。この点、地域倶楽部という展開の萌芽ともいえるかと思う。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・プロの演奏家による指導と映像共有などで、指導の質を担保した。
- ・情報共有にラインのオープンチャットを用い、楽器の取り扱い、調弦アプリ、糸等の補充、メンテナンス留意点などは、スムーズかつ細やかに共有できた。
- ・2地域で時期をわけて実施したため、運営工夫や反省、指導者の悩み共有で三味線指導の精度が上がった。
- ・鹿島神宮や横浜能楽堂という地域文化資源への関心・理解が何よりも参加者のモラルアップにつながった。

- ・指導者：横浜では横浜邦楽邦舞協会との連携により、体制的なバックアップを得た。
- ・生徒募集：各財団の協力を得て、公共施設にチラシを配架いただいた。業者によるポスティングもした。学校の先生方にも個別にチラシをお持ちしご協力いただいた。
- ・活動時間：参加がしやすい土日午後実施した
- ・人材育成：指導者自身がファンリテーションや交渉を行えるかたちで「多能工」化している。
- ・民間企業とのタイアップ：鹿嶋ではまちづくり会社や呉服店と連携し、広報や撮影で協力してもらった。
- ・楽器：三味線のレンタル先を案内し、各自手配・保管・持参するかたちとした。
- ・ICT活用：①講師間の打合せや外部有識者会合は、ZOOMによるオンライン会合
②申込前のオンライン相談会の開催
③参加者の画像・音源・楽譜・メンテナンスなど、様々な情報共有はLINEのグループチャット

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・上記のとおり、事業実施にあたっては、横浜市文化芸術財団および横浜能楽堂、鹿嶋市文化スポーツ振興事業団および鹿島神宮のスタッフの方々の全面的なバックアップなくしては実現できなかった。地域の文化資源とそこに関わる方々の理解が大変重要と感じている。

- ・他方、教育委員会や学校などへのアクセスポイントがなかなか見つからず、この点が解消されないと、参加者数を拡大していくのは難しいと感じた。横浜では、学校での三味線体験授業を実施していたが、そこを通じての講座参加はなかった。学校での三味線クラブの母体がなかったので募集に苦労した。

- ・会費面については、事業費から三味線レンタル代を助成したので、非常に喜ばれた。また、横浜の場合は、財団の共催によって会場費の減免措置を適用していただけたのが大変ありがたかった。

- ・楽器の確保は、東京にある三味線工房のレンタル制度が利用できたが、このサービスがないと成り立たなかったが、本来は地域の三味線店と連携をできるほうが、地域振興やメンテナンスを含めた安定性が増すと思われる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

- ・体制としての願望だけをいえば、上記の学校や教育委員会へのアクセスが難しい、という課題については、地域文化拠点と教育機関とがつながる中継・ハブ機能があるとありがたい。形骸化しがちな連絡協議会などではなく、両者が継続的に情報交換できるオンライン上のコミュニティなどがあると、大変助かる。

- ・ただし、上記のような機能がなくとも、個人的な先生方のつながりや紹介を通じて、当面は地道に学校側に働きかけ、展開していくことが重要であると思う。例えば、鹿嶋では、教員の個人的なつながりによって、さまざまな地域の学校で三味線に対する興味・関心が高い先生方を掘り起こしてくれたため、結果として教員の三味線を通じたネットワークが出来上がった。

- ・このようなネットワークが形成できた理由としては、地方における文化的な活動自体が都市部とは異なり相対的に少ないこと、そのなかで先生方は校内にとどまらない情報交換の場を求めていること、があると推察する。また、学校の働き方改革に関わる事業である、ということにとっても理解を示してくださった。また、副次的にそうした先生方同士がそれぞれの働き方について、情報共有する場となった。今後、こうした理解ある先生方が核になると、より地域全体で展開していけるのではないかと感じる。

- ・楽器の確保や保管は参加者各自手配となったが、現時点ではそれで支障はないが、将来的には楽器を学校別の資産とせず、地域拠点や教育委員会などに、楽器の保管や貸出機能などがあるとよいと思う。

参加者 (予定人数)	8名
募集方法	チラシの配布および公共施設における配架、学校の先生を通じての告知
指導者	杵屋勝くに緒 杵屋ちよ
移動手段	保護者による送迎／徒歩
活動費用	1200～1800円/回
スケジュール	【鹿嶋】①5～7月稽古→8月1日披露会 ②9～11月稽古→11月20日鹿島神宮における奉納演奏 【横浜】1～2月稽古→3月6日横浜能楽堂における披露会 * 披露会はコロナ禍のため、関係者のみ観覧
保険加入等	特になし

【活動の様子（写真添付）】

